1 実施体制

佐賀大学、学生スタッフ、市民スタッフ、佐賀市で構成する実行委員会形式

2 実施方針(令和2年度第1回実行委員会(書面表決))

令和2年4月7日に内閣総理大臣が7都府県を対象に緊急事態を宣言するなど、新型コロナウイルスによる感染拡大が国際的な脅威となっており、感染を防止するための様々な措置が個人、組織、社会レベルで実施されている中、佐賀大学においては、講義は原則オンラインとするなど、感染拡大のリスクを可能な限り回避するための措置を講じることとしており、当フォーラムにおいても可能な感染対策を徹底することが必要である。

このような状況に鑑み、令和2年度は、一般及び法人の募集はしないこととし、佐賀大学の学生 のみを対象として実施することとする。

なお、当フォーラムは、佐賀大学と佐賀市のパートナーシップ型環境教育事業であり、実行委員会形式で運営している観点から、事業内容の市民への提供や事業成果の共有等に係る措置を、可能な限り講じることとする。

3 事業概要

(1) 講義

期間 : 令和2年5月14日(木)から令和2年8月13日(木)まで(全12回)

講師 : 学内講師8人、学外講師4人(6・9・11・12回)

方法 : 大学システムによるオンライン講義。なお、市民への学習機会の提供のため、学外講師

(6・11・12回) の講義動画を You Tube に掲載し一般公開した。

0	講義内容	所 属 等	講師名	学生出席	ホームページ配信
1	環境問題概論、フォーラム概要説明	佐賀大学 総合分析実験センター 准教授 佐賀環境フォーラム実行委員会 事業部長	兒玉 宏樹 氏	34	
2	水の中の小さな「国産資源」微細藻類 の可能性	佐賀大学 農学部 生物資源科学科 生命機能科学コース 特任准教授	出村 幹英 氏	35	
3	泥の電池	佐賀大学 大学院 工学系 化学部門 教授	冨永 昌人 氏	36	
4	九州北部の地震活動と地震防災上の 基礎知識	佐賀大学 大学院 工学系 都市工学部門 教授	井嶋 克志 氏	37	
5	温度差発電、エネルギー関係	佐賀大学 海洋エネルギー研究センター 助教	安永 健 氏	34	
6	温暖化対策の動向といまできる身近な 取組	特定非営利活動法人 温暖化防止ネット 佐賀県地球温暖化防止活動推進センター センター長	橋本 辰夫 氏	38	0
7	海沿岸の環境保全	佐賀大学 農学部 生物資源科学科 食資源環境科学コース 准教授	郡山 益実 氏	33	
8	里海学、サンゴ礁関連	佐賀大学 海洋エネルギー研究センター 特任教授	鹿熊 信一郎 氏	35	
9	(株)オプティムが取り組む次世代型スマート農業について	株式会社オプティム 九州支社	岸山 洋介 氏	36	
10	環境保全と市民活動、里山	佐賀大学 全学教育機構 教授	五十嵐 勉 氏	32	
11	地球温暖化のウソ?ホント?「温暖化は本当に起きているの?」	国立環境研究所 地球環境研究センター 副センター長	江守 正多 氏	36	0
12	大学生・若者の環境市民活動につい て	特定非営利活動法人 佐賀県CSO推進機構 佐賀市市民活動プラザ 副プラザ長	秋山 翔太郎 氏	34	0
計				420	

(2) 体験講座

ごみ探検隊

【時期】令和2年11月8日(日)

【場所】佐賀市本庄町袋公民館、本庄町袋・八田国営水路

【内容】インターンシップ型ワークショップの一つ「三気の会」主催の伝統行事「ごみくい」の活動に参加した。ごみくいとはクリークの底に堆積した泥をくみ上げて肥料とする、クリークの多い佐賀平野では長年実施されている資源循環型農法である。今年度は筑後川下流右岸農地防災事業所の協力により、本庄町袋・八田の国営水路にて実施した。まずグループごとに一列に並んでクリークの底泥をバケツにすくい取り、手送りでリレー式に底泥置場まで運んだ。1時間で底泥置場は満杯となり、回収底土は約2トンだった。その後クリークの維持のため大網を使って魚類を捕獲し、外来種は処分、国内種は放流した。終了後、袋公民館にて



有機新米のおにぎり、有機野菜を使用した美味しい豚汁、ふなんこぐい(鮒の昆布巻き)などの昼食をいただいた。今年度はなかなか活動がしづらい年であったが、この日は環境美化活動として地域の方々と共に、自然と触れ合う良い機会となった。

【参加者】受講者(学生) 33人 他佐賀大学生 3人 その他、三気の会、地域住民等、全体で約150人が参加





(3) 現地見学会 (兼環境学習会)

【時期】令和2年8月24日(月)

【場所】佐賀市清掃工場(佐賀市高木瀬町)

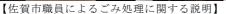
【内容】"バイオマス産業都市さが"の取り組みについて 理解を深めるため、日本初の二酸化炭素分離回 収設備を設置している佐賀市清掃工場を訪れた。 まず佐賀市バイオマス産業推進課の職員から、 ごみを焼却した際に発生する排ガスから分離回 収した二酸化炭素の利活用、そして下水浄化セ ンターにおいて、下水処理の過程で生じる消化 ガスを利用した発電、処理水の農業や漁業への 還元など、地域循環型の取り組みについて説明



を受けた。その後実際に清掃工場を見学し、分離回収の仕組みやごみ処理の様子、リサイクル工場でのペットボトル等の処理の様子を見学した。また清掃工場周辺には分離回収した二酸化炭素を活用する企業等が進出しており、「アルビータ」(藻類培養)、「JA全農ゆめファーム」(キュウリ栽培)、「グリーンラボ」(バジル栽培)の施設を屋外から見学した。

【参加者】受講者(学生) 33人







【二酸化炭素分離回収事業に関する説明】

(4) ワークショップ (WS)

新型コロナウイルスの感染予防対策を徹底した上で8月から活動を開始した。そのため12月開催の「WEBさが環境フェスティバル」に活動動画を出展し、多くの方に活動を知ってもらい、環境への理解を深めてもらうことを大きな目標として設定した。

なお、極力人同士の接触を避ける必要があり、可能な会議や打ち合わせはオンラインで行った。

1) グループWS

今年度より有明海プラごみ班が新設された。

- ①環境教育班(6人)
- ②チャリツーリズム班(6人)
- ③フードロス班 (6人)
- ④有明海プラごみ班(6人)

◇研究目的と研究成果

①環境教育班

- 【目的】子どもたちに身近な環境について知ってもらうため、保育園や幼稚園を訪問し、紙芝居 やゲームを通して環境教育を実施する。
- 【成果】今年度はコロナの影響で直接集まって活動することがなかなか難しかったが、オンラインでのミーティングや自己分析をじっくり行うことにより、一人ひとりが理解を深めながら活動が出来た。実際の活動では子どもたちに楽しみながら覚えてもらえるようにSDGsについて分かりやすく説明した動画やかるたを作った。また西与賀ライトファンタジーやさがんなかまつりなどのイベントに参加し、子どもたちと間接的にも直接的にも交流を深めた。

②チャリツーリズム班

- 【目的】佐賀の自然や歴史・文化遺産を活用した観光 (エコツーリズム) の確立と自転車利用の 促進を目的として、イベントでレンタサイクル事業を実施する。
- 【成果】今年度はバルーンフェスタ等のイベントが中止となり活動が大幅に縮小したが、WEB さが環境フェスティバルへ出展する動画内で佐賀の街並みを自転車で巡りチャリさがさ いせいの活動を広め、自転車の利用頻度の増加を図った。唐津市での散策では、虹ノ松 原や唐津城といった観光名所を撮影しながら巡り、自転車の有効活用について調査した。

③フードロス班

- 【目的】フードロスの現状を学習するとともに、生産・小売・消費など様々な側面からフードロスの原因や対策について研究する。
- 【成果】フードロスについて理解を深めるため、食品廃棄との関係や日本と世界のフードロスの現状と原因について詳しく調べた。またフードロスと関連があるSDGsのターゲットとゴールの相関関係に注目し、それに対する各国や企業のフードロスへの取り組み、そして私たちにできる対策について調査した。

④有明海プラごみ班 (新設)

- 【目的】既往の海岸プラごみに関する報告例を調べ、具体的な調査方法等を確立し、東与賀海岸 全域を網羅した踏査調査を行い、漂着したプラごみの発生源について検討する。
- 【成果】佐賀市が表明している「ゼロカーボンシティ」を推進していくため、アクトクリーンSAGA等の行事に積極的に参加した。また東与賀海岸におけるプラごみの発生源を調べるため、地点ごとのごみの量や種類を調べる定量調査や定質調査を実施した。調査の結果、九州各地の河川と繋がっている有明海干潟は様々なごみが流入していることが分かった。また集めたプラごみを利用して有明海の生態系や環境を表現した作品を制作し、東よか干潟ビジターセンター(ひがさす)に展示した。



【東与賀海岸清掃に参加】



【プラごみアート作品】

2) インターンシップ型WS

【派遣の法人】

- ① 温暖化防止ネット(6人) ② さが環境推進センター(6人)
- ③ 三気の会(6人)

◇受入団体の活動内容と活動成果

①温暖化防止ネット

- 【内容】燃料電池車試乗会業務や環境出前講座など、省エネ活動の普及啓発に取り組んでいる。 また、環境保全活動等に取り組む市民、団体等の取り組みを PR する機会づくりとして、 さが環境フェスティバルなどのイベントを開催している。
- 【成果】身近なものでオリジナルのエコバッグを作成することをテーマに、打ち合わせやリハーサルを行い、WEBさが環境フェスティバルに出展する動画を作成した。また地球温暖化の仕組みやそれによって起こる影響について学び、その対策として「COOL CHOICE」や自分たちに出来ることを調査した。

②さが環境推進センター

- 【内容】環境問題等に取り組んでいる団体、事業所と連携をしながら、まちづくり地域活性化を 推進していくことを目的に活動している。また、ごみ減量、資源の有効利用に関する情 報の発信、リユース品の販売、エコマーケットや体験イベント等を開催している。
- 【成果】エコプラザで身近なものを使って遊べるペーパーロケットを作成したり、糸つむぎ体験や使わなくなった自転車の再利用や整備を行った。またネイチャー佐賀・環境保護指導員の案内による自然観察会で、さが水ものがたり館やエコロジカルポンドなど高木瀬地域の自然を見学した。パーム油についての学習会では、森林破壊や労働者と子どもの人権問題について学び討論した。

③元気・勇気・活気の会「三気の会」

【内容】自然環境が維持、保全される社会を実現するため、人と環境に優しい無農薬・無化学肥料で安全、安心の農作物作りを目指す有機農業の普及を図っている。有機農業の田植え

から収穫までを体験することができる「ほんなもんぼ体験学校」では、子どもと保護者、 大学生といった幅広い年齢層の方々が参加している。

【成果】ほんなもんぼ農業体験学校に参加し、一般で参加されている地域の方とも交流しながら 野菜や米を自分達で育て、農業の在り方や大変さを学んだ。活動としてマルチ剥がし、 芋つる返しや稲刈り、枝豆の収穫、苗芋づくりや堆肥撒布を行った。また有機農業研修 会として農家の方と一緒にアースラブ母材を制作し、有機堆肥を作った。



【インターン参加者の話し合いの様子】



【さが環境推進センター:自然観察会】

(5) イベント

◇2020 WEBさが環境フェスティバル

開催期間:令和2年12月1日(火)~12月25日(金)

「さが環境フェスティバル」はこれまで屋外で開催されていたが、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、令和2年度はWEB上での開催となった。

佐賀環境フォーラムとして出展し、各ワークショップの活動を動画で紹介した。

◎佐賀環境フォーラム

佐賀環境フォーラムの紹介と今年度の活動の様子。外部講師3名の講義と各ワークショップ の内容紹介。

◎環境教育班

鈴虫の音楽会の配信用動画撮影等オンラインを中心とした今年度の活動の紹介、体験型紙芝居等活動のPR、市民との協力やSNSを使った活動について。

- ◎チャリツーリズム班
 - 自転車で市内をめぐりながら佐賀の景色と共に自転車の良さを伝える動画。
- ◎フードロス班
 - フードロスの解説、現状についての説明。世界のユニークな取り組みを紹介。
- ◎有明海プラごみ班

有明海干潟の紹介とごみの現状、清掃活動の様子、参加したアクトクリーンSAGAの主催者へインタビュー。

◎温暖化防止ネット

地球温暖化の現状、佐賀県地球温暖化防止活動推進センターの活動紹介と昨年度の活動について。

- ◎さが環境推進センター
 - エコプラザの紹介、椅子の張り替えや自然観察会等今年度の活動の様子、ペーパーロケット の作成について。
- ◎三気の会

三気の会の活動方針とコンセプト、アースラブ母材について。昨年度のごみくいの様子。





「WEBさが環境フェスティバル」URL: https://festival.saga-collabo.com/big-category/25/

◇河川清掃

大学周辺の自治会と協力し、大学内およびその周辺の河川清掃を行った。

①春の河川清掃 コロナウイルスの影響により中止

②秋の河川清掃

【日 時】令和2年10月25日(日)

【場 所】佐賀大学、佐賀大前自治会内河川

【参加者】49人

(単位:人)

受講者 (学生)	他の学生	教職員	計
3 4	5	1 0	4 9

(6) 研究成果発表会(ワークショップ)

オンラインにて開催。

なお、例年研究成果発表会の終了後に実施していた終講式(一般参加者への受講証の交付)は、 一般参加者を募集しなかったため、実施していない。

【日 時】令和3年1月24日(日)13:00~15:30

【場 所】オンライン

【参加者】50人

(単位:人)

受講者	関係者	委員・	計
(学生)	(受入団体等)	事務局	μΙ
3 7	1	1 2	5 0

(7) インターンシップ制度を活用した学生スタッフの単位認定について

学生スタッフとして従事する学生は佐賀市環境政策課へのインターンシップとして平成30 年度から受け入れているが、令和2年度の受け入れはなし。